2002年(平成14年)6月3日 朝日新聞(夕刊)

惜別

全国水環境交流会代表幹事
広松 伝さん

＝87年7月。遺族提供

(この映画を取り寄せて皆で観てみたいですね。)

柳川の掘割守った「係長」

旧家の白壁、赤れんがの倉庫、民家の水くみ場、窓に干された布団……。船頭が竹ざおで操るドンコ舟に揺られながら見る堀端の風景。ハナショウブが彩りを添える季節に、掘割の恩人が逝った。

福岡県柳川市は、2キロ四方の中心市街地だけで延長60キロの掘割が巡る。だが70年代半ば、ヘドロとごみに埋まって水は流れず、カやハエの発生源になっていた。

下水路化計画が本決まりになっていた77年春、担当係長の辞令を受けた直後に、当時の市長に掘割の役割を説き、計画撤回を直訴。掘割再生の立案と陣頭指揮を任された。

市民相手の集会は100回以上。水道ができてからの荒廃は「20～30年にすぎない」と切り出した。以前は家庭排水は素掘りのタメに落とし、ミミズの力で浄化して掘割に流し、掘割はしゅんせつ、泥は田畑の肥料にした——。

住民総出のしゅんせつが始まった。堀と宅地の不分明になった境界は、持ち前の押し出しの良さで確定させた。

いつしか、全国から講演依頼が舞い込む「市長以上に有名な係長」に。だが、市長が去り、85年に担当を離れた。

広松さんを題材に映画「柳川堀割物語」を撮った高畑勲監督(66)は、「水とどうつき合うか、訴え続けた。今後も共感を広げていくはず」

大好きな酒がすい臓をむしばんだ。死期を悟った会話はないまま、「会議に出やん(出ないと)」とつぶやき、意識が遠のいていった。

(原口 晋也)

ひろまつ・つたえ　5月15日死去(敗血症)64歳　5月17日告別式

「柳河風俗詩」は、明治44年に初版が発行された、全346ページから成る「抒情小曲集『思ひ出』」の中におさめられています。
「男声合唱組曲・柳河風俗詩」は、下にある長短47編からなる詩の中から、多田武彦が選んで作曲されたものです。(復刻版が平成9年に発行され、白秋記念館で販売されています)

柳河風俗詩

柳河……二九四
植の實……二九八
立秋……三〇一
水路……三〇三
酒の黴(かび)
一、金の酒をつくるは……三〇六
二、からしの花の實になる……三〇七
三、酒袋を干すとて……三〇八
四、酛すり唄のこころは……三〇九
五、麥の穂づらにさす日か……三〇九
六、人の生るるもとすら……三一〇
七、からしの花も實となり……三一〇
八、植の實採の來る日に……三一一
九、ところも日をも知らねど……三一一
十、足をそろへて磨ぐ米……三一二
十一、ひねりもちのにほひは……三一三
十二、微かに消えゆくゆめあり……三一三
十三、さかづきあまたならべて……三一四
十四、その酒のその色のにほひの……三一四
十五、酒を醸すはわかうど……三一五
十六、ほのかに忘れがたきは……三一六
十七、酒屋の倉のひさしに……三一六
十八、カンカンに身を載せて……三一七
十九、悲しきものは刺あり……三一七
二十、目さまし時計の鳴る夜に……三一八
二十一、わが眠る倉のほとりに……三一九
二十二、倉の隅にさす日は……三一九
二十三、青葱とりてゆく子を……三二〇
二十四、銀の釜に酒を湧かし……三二〇
二十五、夜ふけてかへるふしどに……三二一
酒の精……三二二
紺屋のおろく……三二三
沈丁花……三二五
NOSKAI……三二六
かきつばた……三二六
AIYAN の歌……三二八
曼珠沙華……三二九
牡丹……三三一
氣まぐれ……三三二
道ゆき……三三三
目くばせ……三三四
あひびき……三三六
水門の水は……三三七
六騎……三三八
梅雨の晴れ間……三三九
韮の葉……三四二
旅役者……三四四
ふるさと……三四五

この他、調べておきたいことのキーワード
「狐忠信」≒「浄瑠離 義経千本桜」≒「佐藤忠信」「狐六法」
「段取り」
「しゃっ面」

2004.7.6 朝日(夕刊)

けさの鳥

カイツブリ

文・山岸哲　写真・金子進

古名は「鳰」。ヨシの中などに水草を運んで皿形の巣を作る。巣は水面に浮いているように見える。親鳥が巣を離れる時は、巣材をかぶせて卵を隠すため、白い卵が徐々に鉄錆色に変わる。最近、減少が伝えられる。ブラックバスやブルーギルが餌の小魚を食べるからだと疑う研究者もいる。

男声合唱組曲「柳河風俗詩」作曲の多田武彦氏です。
「柳河風俗詩」は、1954年作曲ですので氏が24歳の時の作品です。

(1998年10月、日野市民合唱祭 講師としていらした時の写真です。)

多　田　武　彦 (ただ たけひこ)

1930年大阪に生まれる。1953年京都大学法学部卒業。

当初映画監督を志し、演劇・映画・邦楽の学習や、作曲の勉強に励んだ。しかし映画監督志向を断念、銀行に就職。

就職を機に、作曲も止めようと思ったが、恩師・清水脩先生から「日曜作家」を勧められ、今日まで主に無伴奏男声合唱曲約400曲を作曲。1963年芸術祭奨励賞受賞。

現在は作曲活動のほか、合唱指揮や「古今東西の名演分析による合唱指導講習」をおこない、好評を博している。

2004.7.29 朝日(朝刊)

天声人語

そもそも国政は、国民の厳粛な信託によるものであって——。憲法の前文にもあるように、本来「信託」とは、信用して委託することである▼その信託が看板の銀行が、売却の約束をほごにして別の銀行グループと統合するのは許せない。住友信託銀行の、こんな主張を東京地裁が認め、UFJ側に統合交渉の中止を命ずる決定をした。まだ曲折がありそうだが、この異例の争いは、長い歴史を持つこの業界が直面する切羽詰まった状態を示すかのようだ▼銀行業は、いつどこで始まったのか。その起源を正確に解き明かすことは難しいという。古代にも両替や貸し付けはあった。銀行を意味する英語のバンク(bank)は、取引用の台を表すイタリア語のバンコ(banco)に由来する。ルネサンス期には、横長のバンコを前に座る両替商の絵が描かれた(『図説 銀行の歴史』原書房)▼今でも、日本の多くの銀行にはカウンターというバンコがあり、そこを受け持つ行員たちは客と正対している。しかし、奥に居る幹部は正対しているのだろうか▼吉野作造編集『明治文化全集』の「銀行小言」という一項に、銀行の重役として「左の性質を有するものは其の任に不適当なりとす」とある。「万事に不決断なる性質／短気にして事に触れ怒り易き性質／他に対して傲慢なる性質／思操堅固ならざる性質／情実に流れ易き性質」▼バンコの奥の方には、その銀行の客の金があるだけではなく、国民全体から集めた税金が注入されたことを忘れないでもらいたい。

BANKO＝縁台と注釈があはずが、元は右の文章をご参照ください。

2010.3. 男声合唱団エルデ